

パブリックコメントの概要

実施期間

令和6年12月16日（月曜日）から令和7年1月20日（月曜日）まで（36日間）

意見総数

457件（WEBフォーム267件、メール34件、郵送・FAX・持参156件）

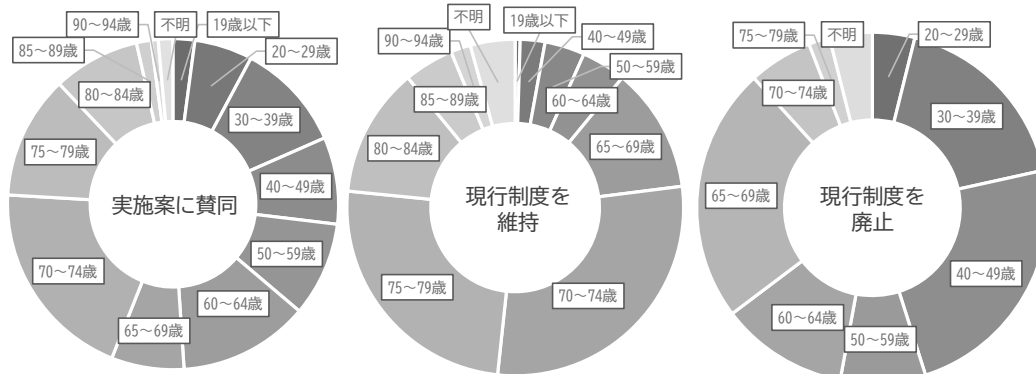
※同一人から複数回送付された意見はまとめて1件として集計

※市外在住者からの意見（7件）は総数から除外

敬老パス制度の見直しに対する主な意見

敬老パス制度に対する意見の分析

- 敬老パス制度の実施案に賛同する意見は幅広い世代から寄せられており、70歳以上の高齢者がその半数近くを占めている
- 一方、現行制度を維持すべきとの意見の7割以上は70歳以上の年代が占めている
- 制度そのものを廃止すべきとの意見は、70歳未満でその傾向が強かった



※意見分類の考え方

実施案に賛同……実施案（敬老パス制度の見直し案）に賛同しているもの

現行制度を維持……現行制度の維持・拡充を求めているもの、実施案に一部でも反対しているもの

現行制度を廃止……現行制度の廃止を求めているもの

敬老パスの見直しに賛同する意見

- この制度が施行された当時とは状況が変わっており制度の見直しは必須。（30～39歳）
- 時代状況、札幌市の財政事情、高齢者の増加等、詳細なデータを示しての内容は理解でき、段階的に見直しを計ることは賛成である。（70～74歳）

【市の見解】

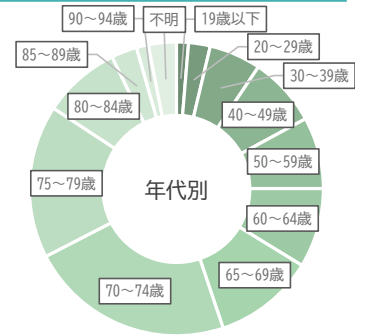
実施案は、現役世代に対しては、現在敬老パス制度を利用されている方が現役だった頃に負担していた金額と同水準のご負担をお願いするとともに、高齢世代に対しても一定の見直しにご理解をいただく内容で、持続可能な仕組みとして提案をさせていただいたものです。

年代別の分析

- 年代別では、70歳未満の市民からの回答割合が4割を超えている
- 70歳代が最多ではあるが、幅広い世代から意見が寄せられている

意見の全件公表

- 実施案に対して寄せられた主な意見は以下に示すとおり
- 年代別の内訳のほか、意見の内容についても、不適切な表現や個人名等を伏せた上で、市公式ホームページ上に全件を公表する



敬老パスを維持すべきとの意見①

- 財政事情を考慮すると、見直しはやむをえないと思うが、自己負担割合は一律30%にできないか。（70～74歳）

【市の見解】

自己負担割合については、他の政令指定都市の状況を参考にしつつ、子ども料金が半額であることも勘案して、見直しを行うこととしています。

自己負担割合を軽減する場合、年齢やチャージ上限額の更なる見直しを進めなければなりません。

- 個人的には年齢を75歳に引き上げるのはいかがでしょうか。（60～64歳）

【市の見解】

対象年齢については、制度開始時から平均寿命が10歳程度上昇していることや、国の法改正により定年年齢の60歳から65歳への引き上げが義務化されることに鑑み、75歳へと引き上げることとしています。

対象年齢を維持した場合、他の要素の更なる見直しを進めなければなりません。

- 半額補助にした場合の利用限度を4万円に引き下げることとは意味をなさず、現行の7万円のままでも構わないはず。（70～74歳）

【市の見解】

チャージ上限額については、現行の敬老パス制度利用者の多くが4万円以下の利用である実態を踏まえて、見直しを行うこととしています。

チャージ上限を維持した場合、他の要素の更なる見直しを進めなければなりません。

- 敬老パス制度の改悪には断固反対する。（70～74歳）
- 敬老パスの利用が順調に増加しているため、札幌市の負担が増加するのは当然。（75～79歳）

【市の見解】

敬老パス制度を、現行の形のままで継続することは、制度を支える世代の負担、市の財政面を考慮すると困難であるため、一定の見直しを行ったうえで制度を存続することとしています。

敬老パス制度の見直しに対する主な意見（続き）

敬老パスを維持すべきとの意見②

- 現在の敬老パスを存続して、よりよく利用できるようにJRやタクシーにも拡大を。（75～79歳）

【市の見解】

現行の敬老パス制度をJRで利用可能とすることについては、地下鉄・バス・市電に限定して利用できるSAPICAをベースとした敬老ICカードと、SuicaやKitacaとは仕組みが大きく異なること、全国で相互に利用できる交通カードとの調整が求められる可能性があることなどから、実現は困難です。また、タクシーについても、市内を走行する全ての車両に関連設備を導入することは困難です。

（仮称）健康アプリの導入に対する主な意見

アプリの導入に期待する意見

- 健康アプリをととても楽しみにしている。毎日コツコツ歩いたり、友人に会ったり、健康管理もできる。健康に関わる情報を市から発信してほしい。（70～74歳）
- 健康アプリの取組はまさに健康寿命の延伸に直結した制度なので納得感がある。（19歳以下）

【市の見解】

健康アプリが多くの市民に利用され、楽しみながら健康づくりに取り組んでいただくことができるよう、アプリの機能面だけでなく、例えば民間企業との協働によりアプリを利活用できる場面を充実させるなど、運用開始に向けて取組を進めてまいります。

アプリの利用に対する不安の意見

- デジタル化が急がれているが、スマホ保有率とアプリ等の活用とは違いがある。高齢者の実情を理解した制度を考えて欲しいし、そうあるべき。（70～74歳）
- 現在の老年世代においてはスマートフォンがまともに使える人はあまり多くないというのもあり時期尚早なのではないか。（20～29歳）
- 健康アプリと健康寿命延伸の明確なエビデンスは確立されていない。健康アプリの健康寿命延伸効果が不明確である。（70～74歳）

【市の見解】

スマートフォンの利用率は9割を超えていますが、使い慣れていない方がいることも事実であり、そのような不安の声を踏まえ、敬老パスを見直したうえで存続させることとしています。あわせて、導入前のモニター運用により実際にアプリに触れていただく機会を設け、意見をアプリに反映させるほか、スマホ教室の開催を検討するなど、利用者向けのサポート体制を整えてまいります。

また、アプリの効果検証にあたっては、大学等の研究機関と連携するとともに、アプリからどのようなデータを収集・分析すべきかなどについても、学術的な観点を踏まえた検討を重ねてまいります。

今後の対応

- 敬老パス制度について、令和6年9月に提示した実施案のとおり取組を進める
- （仮称）健康アプリについても、実施案のとおり、令和8年4月からの運用開始に向け、モニター運用等市民意見を取り入れながら構築を進める

敬老パスを廃止すべきとの意見

- すぐに廃止することは現実的ではないと思うが、将来的には廃止すべき。その分の予算を子育て支援なり除雪対策なりにあててほしい。（30～39歳）
- 今の高齢者は騎馬戦方式で複数人が一人の高齢者を支えてきたが、これからの若者は肩車方式で一人の若者が一人の高齢者を支えていく時代となることから若者の将来の負担を少しでも緩和させるため、敬老パスの廃止が将来の多くの札幌市民の幸せになる。（70～74歳）

【市の見解】

現在、敬老パス制度を利用されている方からの不安の声にも配慮し、一定の見直しを行ったうえで制度を存続することとしたものです。

アプリの周知・広報に対する意見

- アプリが果たしてどのくらいの市民に認知されるのか。テレビやラジオ、ポスター、郵送など、しっかりと市民に周知してダウンロードを促すべきだと思う。（50～59歳）
- 具体的な事業とポイントがわかるように提示してほしい。（65～69歳）

【市の見解】

健康アプリについては、運用開始に向けた開発を進めているところであり、令和7年度から様々な手法による広報活動を行い、ポイント付与の仕組みについても、導入前のモニター運用により市民の意見を取り入れながら検討を進めます。

個人情報の取り扱いに対する意見

- 個人情報を市や業者に管理されることになるのではないかと。（75～79歳）

【市の見解】

健康アプリにより収集する個人情報は「個人情報保護法」に則り適正に管理・運用します。また、民間企業等、第三者への提供に当たっては、原則本人からの同意が必要（法令に定めがある場合は除く）であり、得られた情報を同意なく提供することはありません。

アプリより敬老パスを優先すべきとの意見

- 敬老パス制度とアプリは一緒にすべきでない。敬老パスはそのまま存続、年齢も70歳のままにして高齢者が安心して暮らせるようにしてほしい。（70～74歳）

【市の見解】

健康寿命の延伸に向けた取組は極めて重要との考えから、「歩く」「人と会う」「健康管理」などの活動に見える化し、健康を高めるための自発的な取組に繋げるため、アプリの導入を進めることとしたものです。

そのうえで、アプリの利用に対する不安の声と制度を支える世代の負担、市の財政面を考慮し、敬老パス制度についても、一定の見直しを行ったうえで存続することとしています。